

# 「お仏壇でのお経の唱え方 その1」



令和3年5月



両讚寺  
恵心寺

発行 〒610-0343  
京都府京田辺市  
大住八河原九  
宿谷真治  
電話 0774-62-3137

再び緊急事態宣言が出され、今年

のゴールデンウィークは外出や活動の制限を余儀なくされ、窮屈な思いをさている方も

多いのではと存じます。もし、何もすることが無いとおっしゃるなら、この機会にお家のお仏壇でのお経の唱え方を覚えてみてはいかがでしょうか？

今月から「お仏壇でのお経の唱え方」を数回にわたって解説して行きたいと思えます（あくまで両讚寺・恵心寺の宗派である浄土宗のお話になりますので、他宗はこの限りではないことにご注意下さい）。

まず知っておきたいことは、仏壇とは一体何なのか？という事です。

浄土宗の仏壇は二つの意味があります。

一つ目の意味は「宇宙の中心の山」という場所。

二つ目の意味は「阿弥陀如来の西方極楽浄土」という場所。実は、その壮大な二つの役割を持った場所がお仏壇なのです。

ただ半畳ほどの広さの棚に向かっているのだけではないのです。お仏壇でお経を唱えるという事は、宇宙の中心に向かっ

てお経を唱えるのであり、極楽浄土に向かっ

て唱えるということになります。

この時点で、お仏壇とはこの世界の物理的な制限を取り払った場所であること、ご理解いただけただかかと存じます。

まず、一つ目の意味である

「宇宙の中心の山」とはどういうことでしょうか？

仏教には古来より独特の世界観があります。

仏教の世界は簡単に言うと、

「四方に三角、四角、半円、円形の世界があり、内側に八つの海と七つの大きな山があり、さらに中心に向かっ

て天界に連なる山が存在し、その山の中腹には四天王の住み家があり、山頂には帝釈天の宮殿がある」という世界観です。

その中心の山は「須弥山（しゆみせん）」と言います。

その「須弥山」ですが、高さ

が約十六万由旬（ゆじゆん）あるとされています（約二三二万キロ）。

お仏壇を見てみますと、棚が二段、三段になっているかと思

います。それは、この「須弥山」の山を表しているのです。

では、二つ目の意味はどういうことでしょうか？

こちらは、文字通りお仏壇と

は「阿弥陀如来の西方極楽浄土」であるということです。

この場合は「須弥山」どころのスケールではありません。なぜなら、お仏壇中央の

仏様である阿弥陀如来は大変大きく、例えば「阿弥陀如来の眉間にある白毫の大き

さは、須弥山が五つ分ほど」と説かれて

いるぐらいです。そのような計り知れない

世界に多くのご先祖様や仏様がいらっ

しゃるのです。それがお仏壇という空間

です。世間では、コロナにより窮

屈な思いをされている方がたくさんいらっ

しゃいます。しかし、灯台下暗しと言

いますか、実は お家の一角にすでに果てしないスケール

を持った世界があるのです。身近な場所

で、自身の世界観が変わること、それこそが「世界が変わった」という悟りなのかも知れません。